紙メディアとICTの融合で情報の活性化を
進む電子化をチャンスに変える

アフターマーケットに価値求める
最適ソリューションを提供

デジタル総合印刷株式会社

電子化を増収につなげる策を披露

デジタル総合印刷株式会社（大阪市東住吉区、河内克之社長）は5月12日、本社会議室で「電子化をチャンスに変える勉強会」を開催した。

近年、ICT技術の急速な発展は印刷業界を取り巻く環境を大きく変化させ、紙メディアとICTの融合が情報の活用を活性化する時代になってきた。

このような環境下にあって「印刷と情報処理技術（ICT）の融合」を旗印に掲げて事業を展開してきた同社では紙媒体はもちろん、電子化したカタログやマニュアル、ホームページ制作、3Dコンテンツ、ARに至るまで印刷とICTの融合を図った最適なソリューションを短納期と高品質で提供している。

これらのノウハウを持って同社では4月に開催された「JP2017・ICTと印刷展」に初出展し、①WEBパーツカタログシステム②分解図イラスト生成システム③ウェアラブル遠隔指示・作業支援システムなどを来場者に披露し、注目を集めた。

今回の勉強会では印刷物の電子化を減収の原因とするのではなく、増収につながるチャンスに変えるための方策を示し、電子化をチャンスに変えた成功事例として電子パーツリスト「座標鳥」などを紹介した。

同社が提供しているWEBパーツカタログシステム「座標鳥」は、紙の分解図から最新の3Dデータまで、幅広い素材をもとに高機能なWEBパーツカタログが生成できるもの。

WEBパーツカタログシステムで20年の実績を誇る同社では、大量の印刷物から早期WEB化はもちろん、最新の3D―CADデータから2D分解図イラストの自動生成、3D―WEBパーツカタログによるコスト削減、WEBパーツカタログによる部品の販売増加が見込める。

実際に同社では、関西の大手電気機器メーカーのほぼ全てのパーツカタログ制作と印刷を行っていたが、パーツカタログは修理業務に携わる販売店までが利用するBtoBの印刷物であったため、2000年頃から電子化による印刷削減の対象となった。

そこで、このピンチをチャンスに変えるべく電子パーツリスト「座標鳥」の自社開発に踏み切り、分解図イラストから修理部品をマウスクリックで注文できる機能が紙では不可能だった他との差別化に成功し、80ライセンスを導入した大手電気機器メーカーを含め、1度導入すると長期連用されるため、安定した財源確保となっている。

一方、分解図イラスト生成システム「CATALOGcreator」は、3D―CADデータから分解図イラストを自動生成し、生産能力を3倍にアップするもの。

印刷物の電子化においても3Dデータより自動生成されるため、大幅な運用コスト削減が可能となる。

同システムは、欧州を中心にワールドワイドで300社以上が導入しており、同社ではアジアの拠点となる契約を開発元のドイツTIDと締結し、セールスパートナーを募集している。

さらに、分解図作成省力化支援システム「イラストジェネレーター」は、3D―CADから変換したXVLデータをもとに2Dイラストを自動的に生成できるもの。従来の分解図作成と比較し、生産能力を3～5倍のアップが可能となる。

さらに、今回の勉強会ではスマートフォンの普及増加による印刷会社の情報提供の方向性として「ARナビキャラ」、ウェアラブル遠隔指示・作業支援システム「BT―Work Remote」を紹介。

印刷物の電子化においてAR・VRの市場の広がりが追い風となり、2020年に向けて12倍の成長が予測される中で取り組みを始めるには今が絶好のタイミングであることを発表した。

講演の中でデジタルソリューション推進室の学多晃司室長は「印刷産業全体の市場規模が縮小することが予測される中で過去に比べて2020年に向けての変化が緩やかなのは印刷の減少に対してソフト・サービスが増加しているからである。今後はソフト・サービスの増加を自社の収益に組み込むことが重要なポイントになる」と指摘したうえで「紙で利益を創出することができれば、企業の高収益を実現することができる。当社には多くの企業のICT案件に印刷会社ならではの視点で対応してきた実績が30年以上ある。ICTパートナーとして便利に使ってもらえれば、必ずお役に立てると確信している」と述べた。

アフターサービスで種々のサービスはすでに立派なマーケットであり、ビジネスチャンスとなっている。ユーザーとメーカーをネットワークでつなぎ、アフターサービスの効率化、スピードアップを実現することがアフターマーケットに新たな付加価値をもたらすことになる。

さらに、同氏は「商品の販売後に発生するこの差別化は困難なため、電子化で差別化を行い、値引き幅を抑止することが重要になる」と出席者に訴えた。

会場はスマートフォンの普及増加による印刷会社の情報提供の方向性として「ARナビキャラ」、ウェアラブル遠隔指示・作業支援システム「BT―Work Remote」を紹介。

印刷物の電子化においてAR・VRの市場の広がりが追い風となり、2020年に向けて12倍の成長が予測される中で取り組みを始めるには今が絶好のタイミングであることを発表した。

講演の中でデジタルソリューション推進室の学多晃司室長は「印刷産業全体の市場規模が縮小することが予測される中で過去に比べて2020年に向けての変化が緩やかなのは印刷の減少に対してソフト・サービスが増加しているからである。今後はソフト・サービスの増加を自社の収益に組み込むことが重要なポイントになる」と指摘したうえで「紙で

合理化推進で利益確保に貢献

差別化を実現する製品群を開発

快適価値の創造と技術力

デジタル印刷機器の普及が進み、印刷における各工程がより顧客に近い存在となったことに伴い、製本加工機も使う人を限定する機械は過去のものとなり、誰もが簡単に使える機械へと変化している。

そうした環境変化に対応するため、株式会社ウチダテクノ（大阪市中央区、五木田行男社長）では、「快適価値の創造と技術力」を製品開発のコンセプトに掲げ、これからの時代に向けた総合的な環境づくりをサポートする製品群を開発・販売することで印刷現場の省力化・生産効率の向上を実現し、利益確保に貢献している。

株式会社ウチダテクノ

POD 後加工自動化機器特集①

合理性から快適性を追求

紙枚数計数機「カウントロンAT―twin」

印刷された製品を正確かつ品質を保ちながら計数し、いかにスムーズに結束・梱包して出荷するかを追求した同社の紙枚数計数機や帯掛機は、顧客から出された意見を参考に改良を重ねて市場に投入されている。

「紙枚数計数機の開発・販売を始めてから40年以上になりますが、以前と比べてお客様の使用目的が多種多様になってきましたが、当社ではその意見に耳を傾けながら製品開発を続けてきました。

機械が使う人を選ぶ時代ではなくなり、使う人が機械を選ぶ時代になり、品質や環境に伴う要求に加え、安全性に応えることが製品開発の重要なポイントとなってきました」と省力化機械事業部の荒木浩部長は語る。

現在、同社が販売している紙枚数計数機「カウントロンシリーズ」は、多くの印刷・製本業界で採用されており、生産の合理化において効果を発揮している。

中でも、「カウントロンAT」は、「出荷直前に計数をしたい」といった要望に応えた製品となっている。

「帯掛機がなければ帯掛作業は人の手を介在するしかありません。帯掛作業は印刷工程の中でもプレスの後になりますから、よりスムーズに作業を行うためには使われる人がストレスなく使ってもらえるものでなければ効率化になりません。その点を重視した製品の改良に力を入れています」と荒木部長は示す。

現在、同社の紙枚数計数機・帯掛機は、印刷機や製本機ともインターフェイスが取れる仕様になっており、無人化の流れに対応できるようになっている。

このほかにも、省力化機器の中ではカッター&クリーサー「アエロカットシリーズ」が好評を博している。

同シリーズは、セットするだけで仕上がりまでの加工がワンパスで行えるもの。先に開発された「アエロカットナノ」は、高精度でありながら低価格を実現した製品であり、従来機の「アエロカットアトロ」と同等の処理速度を実現し、高いコストパフォーマンスはもとより、海外メーカーの技術も採り入れた製品開発にも力を入れている。

「数える素材をはじめ、サイズや形も多種多様になり、1台の機械で全てを対応することは難しいため、製品ラインアップを揃え、どの製品が適しているかを提案しています」と荒木部長は語る。

現在、同社の紙枚数計数機は、印刷・製本業界を中心に、官公庁・物流業界・製薬業界・教育関係など、多岐にわたってシート上のものを数えるため使用されている。

これらの改良を重ねた結果、近年ではツインヘッドタイプとして「カウントロンAT―twin」が開発されている。

同製品は、めくりクセが付かないという付加価値と用紙の2つのコーナーを同時に計数することにより、計数精度の向上と作業時間の短縮に貢献するもの。用紙の大きさに合わせて右側の計数ヘッド位置が自動調整されるため、誰でも簡単に使うことができる。

同時にトンボの余白を断裁後に計数作業が行えるため、出荷直前の枚数検査も可能となるほか、2つの計数ヘッドの独立使用やヘッドごとに区分けの合紙テープが挿入できるようになっている。

一方で、梱包の合理化を高める帯掛機「テープピットシリーズ」も各種用途に合わせた製品を市場に投入し、好評を博している。

最近では、市場で高い評価を得ている帯掛機「テープピットWX」をベースに搬送用のコンベアを搭載し、自動帯掛け・排出が行える新モデル「テープピットWX―Auto」を開発し、販売を開始した。

同製品は、ベルト搬送速度と加速度の調整が可能なほか、ワークの長さで自動読み取り機能を搭載しているため、異なる長さのワークでも中央に帯掛けすることができる。

1台でフィルムテープ、クラフトテープの両方が使用できるほか、「テープピットWX」のテープ送り一時停止機能・二次引き締め機能も搭載されている。

カッター&クリーサー「AeroCut Prime」

UCHIDA TECHNO　UCHIDA

最先端の技術でお客様を支えます！

ニーズの変化に細やかに対応

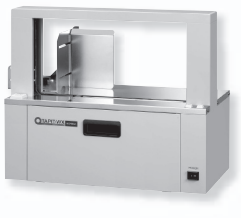
AeroCut Prime ▶▶▶ 高機能を追求した上位モデル

NEW

新機能の給紙方式『Tri-Suction Mechanism』を搭載。Primeコンプリート仕様はカット、筋入れのほか、クロスパーフォにより同時にタテ・ヨコ方向へのミシン加工が出来ます。

テープピットWX ▶▶▶ テープでくるむだけの簡易包装に

ラッピングも、地球環境への負荷を軽減するため、できるだけ簡易に済ませようとするお客様が増えています。そこで活躍するのが、帯掛機で培った技術です。紙テープ、フィルムテープで商品をくるみ包装する方法で、ここ数年導入に踏み切られるお客様が増加しています。オプションでテープに印刷をすることも可能です。



株式会社ウチダテクノ　ISO9001／ISO14001 認証取得企業（ISO9001:全組織、ISO14001:本社）
(株)内田洋行グループ企業

〒104-0033 東京都中央区新川1-10-14　☎03(5657)4071
〒060-0031 札幌市中央区北1条東4-1-1　☎011(241)2825
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-4-20　☎052(220)5270
〒540-8520 大阪市中央区和泉町2-2-2　☎06(6920)2460
〒812-0008 福岡市博多区東光2-10-11　☎092(476)5011

ホームページアドレス www.utecs.co.jp

meclib デジタルブック作成システム　www.digitalbook-meclib.jp

再版OK!

デジタルブックが 月額1万円で作り放題!

HTML5完全対応　豊富な標準機能　安心サポート
作成は簡単　導入企業多数

www.kotonet.co.jp　facebook.com/kotobukikikaku

「伝えたい」を技術で支える 株式会社コトブキ企画 Contents Solution Provider
【本社】〒530-0015 大阪市北区中崎西4丁目3番12号　TEL.06-6372-5669
【東京営業所】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目8番7号 富田屋ビル8F　TEL.03-5251-0025

30日間 meclibをお試しいただける 無料試用版をご用意

UENO

ブランケット回復及び洗浄剤
ブランリニューアー UV-10
エマルジョンタイプ

★ブランケットの凹みを素早く回復。
★紙粉も同時に除去。

圧胴用固着インキ洗浄剤
シリンダースイーパー

◆圧胴洗浄に最適なインキ洗浄剤
◆2種類の研磨剤と特殊溶剤の相乗効果で固着インキを強力に除去
◆仕上げ拭き一回で完結
◆液だれせず取り扱いやすい高粘度液体タイプ
◆ワックス成分配合でインキの再付着を防止

お問い合わせは ウエノ株式会社 URL http://www.uenocorp.co.jp
本社　〒532-0011 大阪市淀川区西中島7-4-17 新大阪上野東洋ビル　TEL 06-6301-1555
東京　〒130-0014 東京都墨田区亀沢4-21-12　TEL 03-3625-3814
名古屋　〒464-0855 名古屋市千種区千種通5-8　TEL 052-741-5351
京都　〒615-0065 京都市右京区西院日照町90　TEL 075-312-3426